

第3回生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会

日時：令和6年3月14日（木）10:00～12:00

場所：林野庁 AB 会議室およびオンライン開催

参加者：別紙参照

【概要】

○議題1 「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針（案）」について

パブリックコメントを踏まえた修正について了承を得た。また、検討会での意見を踏まえた修正については委員長一任とし、指針を作成することとなった。

資料に基づき指針の概要を説明。各委員から出た主なコメントは以下のとおり。

【コメント概要】

（タイトルについて）

- 指針のタイトルである「生物多様性を高める」との表現には詳しく説明を入れる必要がある。「高める」には外来種が増えるような場合は入らないことや、一つ一つの林分においてだけではなく、地域全体で生物多様性を高めることが重要。また、ネイチャーポジティブには社会変革も含む概念もあるので、その趣旨を文中で表現していただきたい。
- 生物多様性を「高める」という表現はあまり使わず、堅く言えば「保全・回復」。林業は農林水産業の中で唯一、回復可能なセクターだと思いつているので、ぜひ「回復」を入れていただきたい。生物多様性は世界的に主流化しつつある今、浸透させる働きかけが必要で、現場で理解されることが重要である。
- ネイチャーポジティブを実現するのだという意味で、「高める」という言葉を使用するのも一つの考えだと思う。環境省で検討している新法も「増進」を使っており、「高める」は、「増進」と同じ意味と理解している。
- 林業の現場では「生物多様性」と言うだけで、「木材生産に規制が入るのではないか」と警戒される。林業事業体を対象とするなら「ネイチャーポジティブ」という横文字を使わず、現場で認識されるような分かりやすい言葉がよい。

（本文について）

- この指針に基づいて実施された施業が「昆明・モンリオール生物多様性枠組」のどのターゲットに該当するのか、支援した者が間接的にどのターゲットに貢献するのか、というところが重要になるので、ターゲット2の「劣化地の回復」も含めて指針で記載しているターゲットの例を追記いただきたい。
- 草地生態系をしっかりと確保することが必要。また、地質・地形が創出する生態系も、そこでしか生息できない生物もあるので、保全すべき場所として位置づけるべき。
- エコロジカルネットワーク、生態系をつなぐという観点が必要であり、追記いただきたい。また、生態系では、ランドスケープや林分について記載があるが、一本の木が鳥の営巣木として生態系に大きな影響を及ぼしている場合もあるので、巨木の保全といったミクロの視点も加えたスケールで生態系を保全することが重要。
- 地域性種苗について、地域に合った様々な品種を植えることが災害にも強く、生物多様性にも良い山づくりとなる。里山における資源利用について、地域ごとのプロセスが伝わるような表記としていただきたい。
- シカの被害拡大について、「分布域が全国的に拡大している」の「全国的」が消えてしまっているが、モトイキとしていただきたい。
- 土壌の流出は森林生態系の基盤の劣化であり、土壌を守り・育てることが一番重要。シカの被害は土壌劣化の一例に過ぎない。

- 「企業の資金提供によりネイチャーポジティブを実現すると企業の価値が上がる」と記載しているが、ほとんどの企業はそうは思わない。生物多様性は企業にとって、あまり関わり合いがないと思っている。企業を巻き込んで、この指針を実現するにはどのようにしたらよいか検討してほしい。
- 企業の生物多様性保全に対する関心が増えている中、生物多様性を正しく理解しないまま取組が進められているため、生態系保全につながるような理解の醸成が必要。例えば、自然草原に間違った植栽をして、生態系を損失させれば、それが企業にとってリスクとなる時代となっている。自然草原・湿地といった環境の重要性に関する記載があった方がいい。
- 活動目標の箇所について、パブコメを受けて「数値目標を書くことが望ましい」と追記されたが、保全対象や森林に期待される生態系サービスなどに応じた活動目標ではなく森林施業にかかる面積や事業量などについてならば、数値目標は書いても書かなくても変わらないのではないかと。

○議題2 その他

(事例集について)

- 事例集はヒントがいっぱい詰まっており、これをうまく活用することで企業が取り組むきっかけとなる。企業から支援金を募り、この事例集を冊子にして配布することを検討してほしい。
- 世界自然遺産の取組を入れることはできないか。例えば、小笠原では長年外来種対策を行っている。また、世界自然遺産地域は、エコツーリズムで収益を上げているので、そういった事例を取り上げてほしい。
- 面積が大きいところばかりなので、小面積で伐採と更新を同所的に行って生物多様性を確保している事例があればよい。また、将来どうなるのか、どうなったのかなど将来展望を入れると良い。
- 成果に関する記載を「ねらい」のところに記載できないか。また、国有林の事例で、「複層林化」とあるが、まだ科学的に生物多様性にとって良いものだと証明されていない。
- TNFD等の情報開示に向けた動きが始まってくる中、事業活動上のサプライチェーンに生物多様性が位置づいているかという証明が難しいので、この事例集に掲載されるということも間接的なメリットとなることに期待する。
- 草地の事例がないので、北海道の防風林の管理を通じて草地の管理取組など、草地の管理・重要性が分かる事例を入れていただきたい。
- 地域住民や、行政、専門家など主体が多様であることは、取組にあたって一番の悩みどころ。どのような主体が参加し、仕組み・枠組みを活用しているのか詳細に読み取れるようにしていただきたい。
- 学術的な事例も有効だと思うので、森林総研と協力して入れていただきたい。

(その他)

- 森林施業プランナー研修では生物多様性の話をほとんどしないので、森林施業プランナーのテキストを見直すなどしたらいかがか。
- パブリックコメントでは、国有林に対する期待が高いのが分かった。国有林も生物多様性戦略を作っていただきたい。
- 水のクレジット化の議論が進んでいるが、海外では森林整備を行わないことが水資源を守ることと評価されており、日本の森林事情と全然違う。議論を注視いただき、海外の指標が一般化されないようにしていただきたい。

以上